

1年(E)組 NO: (33) 氏名 ()

1, テーマ「多様な視点で世界の食糧安全保障を考える」

2, 講師 政策研究大学院大学 株田文博 先生

750 billion
(1.3B tons)

3, 概要(1)イントロダクション 自己紹介、公共政策

(2)国際食料需給と食料の量的リスク～飢餓と飽食の依存と不安定性

(3)国際的な食料安全保障に関する論議

(4)テーマ別論点

世界 本

(5)補論：諸外国および日本における食料安全保障議論

4, 講演要旨

20世紀から21世紀になり、成長社会が成熟社会に変化し、「みんな一緒」という考えから「一人一人」の重視に変化した。internationalizationと globalization は少し異なり、場合によってラフに付け替えてはならない。日本は他の先進国と比べ所得は高いが、摂取カロリーは少く、また動物性タンパク質の摂取量は少ない。また日本はグローバルなレベルでも高い国である。毎年750Bドル(1.3Bトン)分の食糧が捨てたり、無駄になったりしている。世界人口の1/4は栄養不足に陥っているため、7.5Bトン分の食糧を分配する必要がある。例として、インドの家族は1週間分の食糧にかかるお金は1ドルほどだが、日本やアメリカの家族は圧倒的に多い食糧を摂取している。

5, 感想・意見

世界の食糧の事情が良くわかった。国際政策に efficiency が優先されるのは仕方ないことかもしれないが、発展途上国と先進国との差を埋めるため、justice も大切にする必要があるのかもしれないと感じた。

文化によって立場によって何が justice かも変わるので、何か人類全体が皆同じ何か。根本的見方での解決をしよう

1年(E)組 NO. (27) 氏名 ()

1, テーマ「多様な視点で世界の食糧安全保障を考える」

2, 講師 政策研究大学院大学 株田文博 先生
六本木

3, 概要 (1) イントロダクション 自己紹介、公共政策

(2) 国際食料需給と食料の量的リスク～飢餓と飽食の依存と不安定性

(3) 国際的な食料安全保障に関する論議

(4) テーマ別論点

(5) 補論：諸外国および日本における食料安全保障議論

4, 講演要旨

観高 Equality, Justice, Efficiency
平等 恵み分け 効率

人口 Era of Empires
Semi-Nomadic Era City-states

Globe Era of

(1) 国家公務員になり、世界の食料問題に関わってきた方の前向きな政策企画は、理想像に向かっている。価値観により政策も変化。20C 成長社会 (正解あり、秩序) / 21C 成熟社会 (正解なし、多岐) 国際化 国境を前提、国境を越え、標準化・規格化、交際率、多様性の尊重

(2) 食量が増えるに比例して、食料の生産も増える。食料の生産と消費のバランスが崩れる。9人に1人が食料不足という国がある。(ex. 大豆、小麦)

(3) 食料輸出国... 楽観 食料輸入国、途上国... 悲観 (1人1人に合わせる)

(4) 食料第一の視点 → 農村住民の生計の視点 / 客観 → (主観)

(5) SDGs 持続可能な目標 NO. 2 飢餓をゼロに (2030年まで)

UNHCR 食料援助 (多) / 大豆、小麦 (食料不足)

よくわかりました。

5, 感想・意見

飢餓問題視している国は平均的に基準を満たしている。この印象的だった。世界規模だけでなく地域内でも食料分配が重要な課題だということがわかった。ただ食料が不足している国に援助をするだけでなく、途上国の自立を促す必要があると思った。将来少子高齢化の問題解決に貢献していきたい。

不才!! ありがとうございます。自分の将来の選択に影響はありますか?

2018年度 高1 SGH講演会 記録用紙

1年(E)組 NO.(20)氏名()

1, テーマ「多様な視点で世界の食糧安全保障を考える」

2, 講師 政策研究大学院大学 株田文博 先生

3, 概要(1)イントロダクション 自己紹介、公共政策

(2)国際食料需給と食料の量的リスク～飢餓と飽食の依存と不安定性

(3)国際的な食料安全保障に関する論議

(4)テーマ別論点

(5)補論：諸外国および日本における食料安全保障議論

4, 講演要旨

政策というのは現在において認識され、それを解決してよい未来(=理想像)を目指するために介入手段として用いられるものである。政策はequality, justice, efficiencyの3つに分けられる。20世紀は、皆一緒の正義であったが、21世紀は修正主義であり、納得解を考えた方がいいものがある。世界的に見ると栄養が不足している人はアフリカや中南アメリカ、南アメリカの北部に多い。しかし一方で、食の多様性のために健康被害に見舞われている人達もいる。特に先進国(アジアや北米、ヨーロッパ)では小売店で購入した後に食べないで廃棄した食品も多い。資金や権力、時間などの制約が多い高校生が選ぶことは、将来こういった問題を解決できるお勉強に励むことである。また、オンラインでも、ネット食品を積極的に購入し、中には多額のお金と、栄養が不足している上に資金も低い人達の手助けになっていることもある。

5, 感想・意見

絶対に正しい解があるとしても、多くの問題を解決するとはできない納得解を考へることが大事だと思う。食料問題だけでなく他の問題においても考えるべきだし積極的に意識していきたいと思う。できることがなくても問題を意識しそれについてどんなことをすべきか、要因などを考えることが大切なのではないかと。

全くその通り!! 問題の存在を認識することが第一歩
下を思い、君らの将来、世界の平和に責任を負う
責任を分かるといふこと